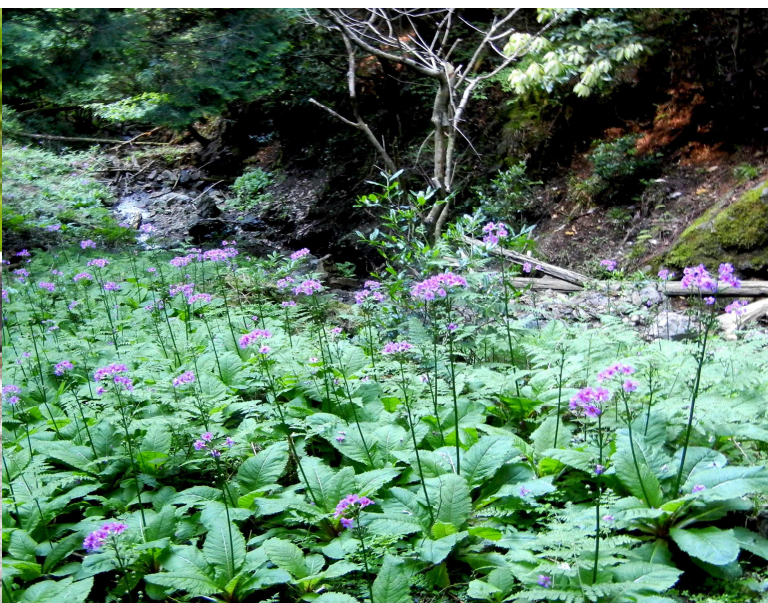


氷上回廊の分水嶺直ぐ北に自生するクリンソウ

丹波市市島町 妙高山のクリンソウ群生地 2015.5.19.



丹波篠山の北 日本一低い分水嶺 氷上回廊 分水嶺のすぐ北 市島町妙高山の小さな谷筋の湿原で街の人たちの保護活動に守られて、今 クリンソウが 美しいピンクの花をつけていると聞いて、5月19日 立杭の陶芸美術館へ行った帰りに出かけました。

氷上回廊・水別れの北側 丹波市市島町の妙高山の小さな谷筋の湿原で近年見つけた クリンソウ群生地。

大昔、幾多の動植物がこの回廊を南北に行き交い、数多くの動植物が日本列島に広がっていったという。

クリンソウはどうだったのでしょうか？

クリンソウは六甲高山植物園の湿地にも毎年咲くので、貴重な花との思いはありませんでしたが、兵庫県内の自生地はごく少なく、レッドデータブックBに指定されている貴重な花だと。

昨年 近代製鉄発祥地釜石の橋野高炉跡を訪ねた時に、高炉跡に咲くピンクのクリンソウが周囲の緑に映えて、すごく印象的で 今年は是非クリンソウの自生地を訪ねようと。

妙高山の山合いの小さな谷川が流れる狭い谷筋のひっそりとした湿地に、大きな緑の葉を精一杯 放射状に地面際に広げ、その中央から細い花径を垂直に伸ばし、先端近くに数段に渡って王冠状の小さなピンクの花の輪を咲かせて幾つも林立している。

「一つ手折って 花飾りとして胸に刺してみたい」

そんな感じを抱かせてくれる。

派手さはないが、蒸し暑い梅雨前のこの時期に

花言葉「幸福を重ねる」をそのままに

ゆったりと気持ちをすっきりと心地よくしてくれる花。

新緑の谷筋に林立して、心地よい空間を演出する可愛らしいクリンソウに出会ってきました。



日本最古の近代高炉跡 釜石橋野高炉跡にひっそりと咲くクリンソウ 2014.6.7.



妙高山のクリンソウ

クリンソウとは

クリンソウ（学名 *Primula japonica*）はサクラソウ科、サクラソウ属の多年草で、花の咲き始めは4月末、見ごろは5月中旬です。大きな根性葉から高さ30センチ～50センチほどの花茎をだし、濃い紫がかったピンク色のかわいい花を車輪状に数段つけます。和名「クリンソウ」の由来は、輪生する花を仏塔の上に立つ「九輪」に見立てたものです。別名「ナナカイソウ」七階草・「シチジュソウ」七重草ともいう。実際には九段あるものは少なく、四つ葉のクローバーを探すより難しいものです。花は6月になると散りはじめ花の後に種子を形成していきます。果実は熟すと株が裂け種子が散布され、適地に着地すると増えていきます。クリンソウには全草にサポニン類の成分があり、シカやイノシシなど動物に食べられることがないとされています。



妙高山のクリンソウ



クリンソウは丹波市での自生は珍しく、兵庫県ではレッドデータブック B ランクに指定されている絶滅を危惧されている貴重な植物です。

妙高山のクリンソウは、今のところ被害にあたり荒らされたりすることなく少しずつ範囲を広げつつあります。当地区では地元住人、自然研究家、植物愛好家を中心となり、クリンソウの生育の邪魔にならないよう自然のままの状態で自生地を保護すること、自然観察道及び周辺整備に心がけ管理に努めています。

見学者の皆様もルールを守り群生地の保護にご協力をお願いいたします

1. 採集は絶対にしないでください。
2. 足元にあるクリンソウを踏まないように気を付けてください。
3. ゴミは捨てないでください、すべて持ち帰ってください。

連絡先「妙高山のクリンソウを守る会」 TEL 0795・85・2457 鴨庄コミセン内

梅雨の前 初夏の湿原で密かに咲くクリンソウ 《九輪草》

《クリンソウの花言葉》

『幸福を重ねる』

クリンソウはサクラソウ科の日本原産の多年草。

花の輪が下から先端によって何段にも重なることから、またはお寺の塔の九輪のように見えることから「クリンソウ（九輪草）」と名づけられた。

5～6月に北海道から本州・四国に分布し、山地の湿地などで自生。

茎は50cmほどですがときには1m近くにも伸びます。葉は薄緑色の長楕円形で長さ10～20cmと大きく、縁にはギザギザがあり、花色は白やピンク、濃桃色で、長く伸ばした茎先に、3～7段ほど茎を取りまいて車輪のようにつく。



古窯 立杭の郷の田園風景 2015.5.19.



日本一低い分水嶺 石生 水別荘を越えて 春日町に入り、由良川へ合流する黒井川に沿って北へ 2015.5.19.



日本一低い中央分水界 丹波市水上町石生 「水別荘」



2011.5.14.



日本一低い分水嶺 石生 水別れを越えて 春日町に入り、 由良川へ合流する黒井川に沿って北へ田園地帯が広がる中を市島町へ。 まもなく市島町の街中の JR 市島駅の所で国道を離れ、東へ県道 59 号線へ曲がり、黒井川から竹田川と名を変えて北へ流れ下る由良川分流の橋を渡り、鴨庄の郷を妙高山山麓へ向かう。「クリンソウを守る会」の旗が要所に立っている旗を頼りに田園地帯が広がる明るい谷筋へ入ってゆく。舞鶴若狭自動車道の高架をくぐって、神池寺への道路標識で右に折れ、間もなく谷筋が狭くなってきたところに、クリンソウの旗と妙高山神池寺の案内板があり、狭い谷筋道を妙高山山腹にある神池寺へ向かう道に入れば、まもなく 妙高山クリンソウの群生地。 道がいいので、篠山市の立杭から約 1 時間ほどで到着。



妙高山クリンソウの群生地への道 2015.5.19.



集落を外れ、妙高山の山腹を登る坂道を少し登るとクリンソウの旗がみえ、群生地の入口に 2015.5.19.



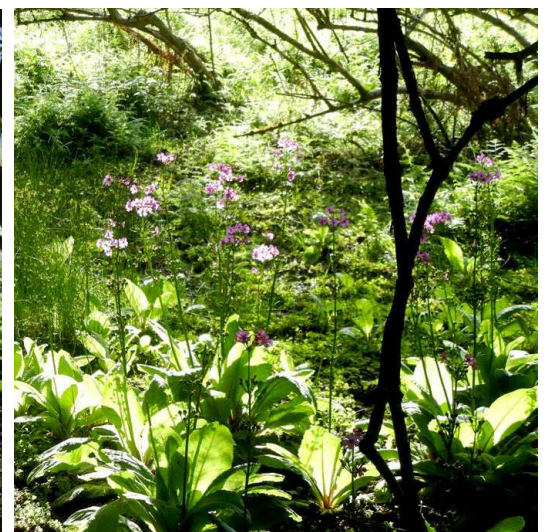
妙高山 クリンソウ群生地への谷筋の入口 2015.5.19.



集落を外れ、妙高山の山腹を登る坂道を少し登るとクリンソウの旗がみえ、群生地の入口に



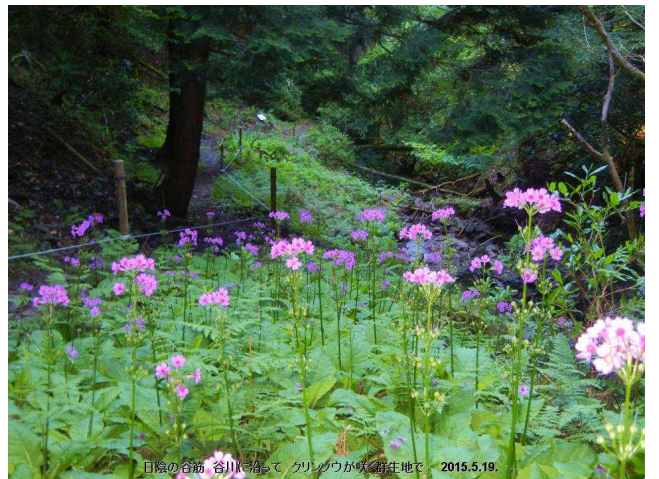
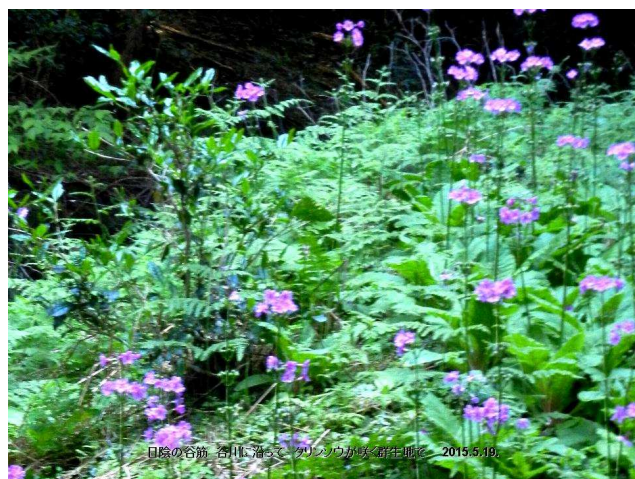
妙高山 クリンソウ群生地への谷筋の入口 2015.5.19.
谷筋出口の湿地にも谷川沿いにクリンソウが咲いているのが見えましたが、まず奥の谷筋へ



入口から 山際に沿って奥へ 群生地へ入ってゆくが、すぐ横の谷の出口の湿地にもクリンソウが咲いているのが見えるが、案内標識に沿って 山道を奥の狭い谷筋を登ってゆく。小さな谷川に沿って少し登ったところから谷川沿いにクリンソウが咲いている。 もう4時前 谷筋には陽が入らず、入口の陽の当たる湿地の明るい色とは違った濃い色に。



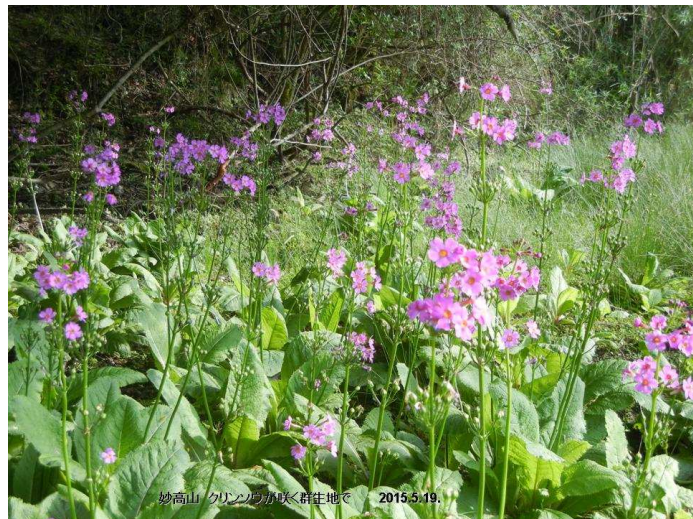
谷筋を少し登ると道の横の谷川の縁の平地にクリンソウが咲いているのが見えてきた 2015. 5. 19.







谷川を渡って 陽が当たる湿地へ ぱっと明るくなって 2015.5.19.
こゝにクリンソウの色合いも変化している



妙高山 クリンソウが咲く群生地 2015.5.19.

妙高山のクリンソウ

クリンソウとは

クリンソウ(学名 *Primula Japonica*)はサクラソウ科、サクラソウ属の多年草で、花の咲き始めは4月末、見ごろは5月中旬です。大きな根性葉から高さ30センチ～50センチほどの花茎をだし、濃い紫がかかったピンク色のかわいい花を車輪状に数段つけます。和名「クリンソウ」の由来は、輪生する花を仏塔の上に立つ「九輪」に見立てたものです。別名「ナナカイソウ」七階草・「シチジュソウ」七重草ともいう。実際には九段あるものは少なく、四つ葉のクローバーを探すより難しいものです。花は6月になると散りはじめ花の後に種子を形成していきます。果実は熟すと株が裂け種子が散布され、適地に着地すると増えていきます。クリンソウには全草にサポニン類の成分があり、シカやイノシシなど動物に食べられることがないとされています。



妙高山のクリンソウ



クリンソウは丹波市での自生は珍しく、兵庫県ではレッドデータブック B ランクに指定されている絶滅を危惧されている貴重な植物です。

妙高山のクリンソウは、今のところ食害にあたり荒らされたりすることなく少しずつ範囲を広げつつあります。当地区では地元住人、自然研究家、植物愛好家を中心となり、クリンソウの生育の邪魔にならないよう自然のままの状態です。自生地を保護すること、自然観察道及び周辺整備に心がけ管理に努めています。

見学者の皆様もルールを守り群生地の保護にご協力をお願いいたします

1. 採集は絶対にしないでください。
2. 足元にあるクリンソウを踏まないように気を付けてください。
3. ゴミは捨てないでください。すべて持ち帰ってください。

連絡先「妙高山のクリンソウを守る会」 TEL.0795-85-2457 鴨庄コミセン内

梅雨の前 初夏の湿原で密かに咲くクリンソウ 《九輪草》

《クリンソウの花言葉》

『幸福を重ねる』

クリンソウはサクラソウ科の日本原産の多年草。

花の輪が下から先端に上って何段にも重なることから、またはお寺の塔の九輪のように見えることから「クリンソウ(九輪草)」と名づけられた。

5～6月に北海道から本州・四国に分布し、山地の湿地などで自生。
茎は50cmほどですがときには1m近くにも伸びます。
葉は薄緑色の長楕円形で長さ10～20cmと大きく、縁にはギザギザがあり、花色は白やピンク、濃桃色で、長く伸ばした茎先に、3～7段ほど茎を取りまいて車輪のようにつく。



妙高山 クリンソウが咲く群生地 2015.5.19.



妙高山麓 クリンソウ群生地 入口 2015.5.19.



妙高山 クリンソウが咲く群生地周辺 田園風景 2015.5.19.

《 クリンソウの花言葉》

『幸福を重ねる』

初夏 梅雨の始まりに向けて咲く花
湿地に咲く地味な花ですが、うれしい花
ほっと 一息 新緑を訪ねる中で得た幸福感です

日本原産の花で 兵庫県では絶滅危惧種の植物と聞く。
この群生地も地元の人たちによって、
自生のままに見守られ、保護されてきた。

この丹波の地は 日本一低い分水嶺の氷上回廊

日本海側・瀬戸内側の動植物が行き交った 動植物の伝播道。 この地のクリンソウにもそんな歴史が・・・・

この クリンソウの群生地が ずっと静かで 守られていくことを願う

幸福感一杯で 山をくだりました

2015. 5. 19. 夕 by Mutsu Nakanishi

《参考 和鉄の道 Iron Road 》

日本で一番低い中央分水界を越えて 瀬戸内海と日本海を結ぶ氷上回廊 2011. 5. 14.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/iron7/1106mzwkre00.htm>

